

高知大学医学部医学科同窓会会報

やまもも

高知大学医学部医学科同窓会
会長 廣瀬大祐
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮
TEL/FAX:088(866)0034
dosokaij@kochi-u.ac.jp
<http://www.kochi-ms.jp>

第 26 号

目 次

《会長挨拶》

..... 廣瀬 大祐 2

《卒業生からの教授就任にあたって》

新任のご挨拶 井上 啓史 3

法医学の現場から 古宮 淳一 5

《会員から》

高知医大・高知大医学部卒業生の集い岡山を開催しました・・・ 高杉 尚志 7

高知医科大学 13 期生 卒後 20 年の同窓会 藤田 博一 9

《平成 28 年同窓会総会 開催報告・講演要旨》 11

《事務局からのお知らせ》 11

《会長挨拶》

同窓会会長

廣瀬 大祐（平成元年卒 第6期生）

高知県内の地域医療を取り巻く環境は地域医療構想、地域包括ケアと大きく動いており、2025年には県内急性期病床数も2600床ほど過剰とされています(慢性期も2700床過剰)。病床が減ればそれだけ急性期で働く医師の必要数も減ります。

また、医師個人も新専門医制度など大きな変革点にあります。高知県医師養成奨学金受給者は毎年新たに30人ほど県内医療に従事します。3～4年で専門医を取得した後、残り5年ほどの就業義務期間のキャリアパスが非常に重要になります。

高知大学医学部同窓会にとって重要なことはまず同窓生、次に県内医療体制と考えます。同窓生、特にこれから育つ若い医師のためには、同窓生の縦と横のつながりを密にしていかなければなりません。

そのために同窓会の事業として平成28年度中の名簿発行・ホームページの更新、FacebookをはじめとしたSNS活用は推進をします。その一環とし今回から同窓会報“やもも”の年2回発行(秋と春)を行いました(私の都合で冬になってしまいました申し訳ありません)。また、在学生への支援として現在では大学の公式行事となった5年生の白衣授与および式典への参加、学生行事や地域卒業学生生活動への助成を引き続き行います。

その他、今回の岡山での支部発足の動きが始まりました。今後、全国各地の支部発足の手助けをしていきたいと思っておりますので、予定がある場合は同窓会事務局までご一報ください。その際に医学部振興基金を利用した交流会館の建設に向けた募金集めのお願いを行なっていきたいと考えております。

最後になりますが、毎年8月第1週の総会では卒業10年・20年・30年などの節目に集まっただけのよう働きかけをつづけます。次回、平成29年8月5日(土)には是非お集まりください。

これからも高知大学医学部同窓会活動にお力添えを宜しくお願い申し上げます

《卒業生からの教授就任にあたって》

新任のご挨拶



高知大学医学部泌尿器科学講座 教授
井上 啓史 (平成元年卒 第6期生)

このたび、平成 28 年 4 月 1 日付けで、高知大学医学部泌尿器科学講座教授を拝命致しました井上啓史(いのうえけいじ)でございます。本会報の誌面をお借りして、同窓会会員の皆さまに、謹んでご挨拶を申し上げます。

私は生まれも育ちも高知市で、生粋の土佐っ子であります。高知医科大学に 6 期生として入学し、平成元年に卒業後、藤田幸利初代教授が主宰される泌尿器科学教室に入局させて頂きました。大学院に入学後、当時大舘祐治前教授主宰の病理学講座において、降幡睦夫現教授のご指導の下、学位取得のみならず、腫瘍病理学や分子生物学を主とした研究の基礎を学ばせて頂きました。平成 7 年よりは、執印太郎第 2 代教授のご指導の下、高知大学医学部泌尿器科学教室にて、更なる臨床・研究の修練を積ませて頂き、平成 9 年よりは、米国テキサス州立大学 MD アンダーソン癌センターに Post-doctoral Fellow として留学させて頂きました。同癌センターでは、癌生物学の Isaiah J Fidler 教授および泌尿器科学の Colin PN Dinney 教授に師事し、腫瘍における血管新生メカニズムの解明および抗血管新生治療の開発というテーマで研究させて頂き、現在本邦でも薬事承認されているセツキシマブやラムシルマブなど、数多くの分子標的治療薬の前臨床試験に携わることができ貴重な経験となりました。

帰国後は、この血管新生関連の研究テーマに加えて、光線力学に基づく新たな診断法や治療法の開発にも携わり、日本のみならず中東や欧州の研究者とも学術連携を組み共同研究に従事することができました。臨床においては、より低侵襲な医療技術、特

に泌尿器科腹腔鏡手術やロボット支援手術の臨床導入・実施に注力してまいりました。

全国に先行して人口が減少し、高齢化が進むここ高知県だからこそ、前立腺がんをはじめとする泌尿器がん、さらには排尿機能の問題など、われわれ泌尿器科医が担い解決すべき医療課題は多いと考えます。甚だ微力ではございますが、優れた医療人を育成し、泌尿器科学を介して母校である高知大学の発展を目指して、故郷である高知は元より世界をも意識した教育・研究・診療に邁進していく所存でございます。今後ともなお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



《卒業生からの教授就任にあたって》

法医学の現場から



高知大学医学部法医学講座 教授

古宮 淳一（平成15年卒 第20期生）

この度、橋本良明教授の後任として平成27年10月1日付けで法医学講座三代目教授を拝命致しました古宮淳一と申します。同窓会会員の諸先生におかれましては、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

私は千葉県出身で平成9年に高知医科大学20期生として入学致しました。学生時代に所属していた空手道部の顧問が法医学教授の橋本良明先生であり、卒業後運良く法医学教室助手として採用されました。採用後半年間は総合診療部に出向し、倉本秋教授を始め多くのスタッフの方々のもとで臨床研修をさせて頂きました。特に院内褥瘡チームの回診では、皮膚損傷の一つである褥瘡を詳細に観察記録することが重要であることを学びました。現在、虐待が疑われる小児の皮膚変色について、覚せい剤など違法薬物注射が疑われる人の皮膚瘻痕についてなど、生体の創傷鑑定（臨床法医学）も行っていますが、総合診療部で経験した多数の褥瘡観察が私の臨床法医学の原点となっています。

さて、当教室は高知県唯一の司法解剖担当機関です。警察や海上保安部が取り扱う死体のうち、解剖が必要と判断された事例について死因究明や身元確認を行っています。平成26年度に高知県警察が取り扱った死体数は1291体です。このうち司法解剖を実施したのは63体で、年齢は胎児から高齢者までと幅広く、また、病死や外因死、白骨死体など様々なご遺体が搬送されてきます。より精度の高い法医鑑定を行うため、病理組織学的検査を始め、薬毒物検査、DNA検査、生化学検査、微生物検査など様々な検

査を教室員4名で日夜行っています。死体検案や解剖で遭遇する各事例は、その時代の社会の特徴をよく表し、言い換えれば大きな社会現象・社会病理における氷山の一角とも言えます。このような観点でみると、今の日本社会では孤立死や認知症による徘徊中の死亡など世界一の少子高齢化社会に起因する様々な問題に解剖台の上で直面します。御承知の通り高知県は全国でも高い高齢化率を有しており、最近の報道によれば人口当たりの100歳の人数が全国で2位となっています。従って、本県は世界でも極めて高齢化率の高い地域社会と考えられます。社会医学の一分野を担っている我々法医学教室では、不幸にして亡くなられた高齢者剖検例を詳細に解析し、今を生きる人に活かすべく研究を行っています。

近年、法医学を専門とする医師の不足が指摘されています。日本法医学会の法医認定医制度では、全国約150名が登録されています。本県のような一地方では、法医認定医が一人というのが実状です。今後、法医を専門とする医師の確保や育成、南海トラフ地震に備えた検案や身元確認の訓練、死後画像診断の実態調査など様々な課題があります。本県の死因究明体制を維持・推進するためにも、医師会、歯科医師会、診療放射線技師会、高知大学、警察本部、海上保安部、検察庁、県の健康政策部など死因究明に係る県内機関が一致協力することが重要であると考えています。

《会員から》

高知医大・高知大医学部卒業生の集い岡山」を開催しました

医療法人高杉会 高杉こどもクリニック

高杉 尚志（平成7年卒 第12期生）

それは、今年1月、岡山県内のS62卒、S63卒、H元卒、H7卒の数人の高知医大卒業生の飲み会から始まりました。「次はもう少し人数を増やして開催したいね。」「じゃあ夏頃に」ということで分かれました。私は、最初は半信半疑でしたが、皆さん社交辞令と取っていなかったようで、「じゃあ7月23日(土)に」と言うと、「了解!」とメールが返ってきてスタートしました。最初は数名が、それぞれ1-2名に声を掛ける程度で考えていましたが、折角だから出来るだけ声を掛けてみようということになりました。よく考えると、私は12期生でH7卒ですから、私でも卒後20年が経過していて、上の11学年の先輩と下に20学年の後輩がいるはずで、かなりの数になるはずです。全員に連絡をとることは困難でしたが、S63卒の小田健司先生、H10卒の三好智子先生と私の3人が今回の幹事となり、メールのやりとりをしながら会場選択から始めました。連絡を取り始めると参加者はどんどん増えてきて、私の読みが甘かったこともあり、会場のキャンセルと予約を繰り返して、最終的に「炭火焼き肉 男前」の1階と2階をビルごと貸し切りにさせていただきました。当日は、本当に集まるのか?心配もしましたが、S59卒の1期生からH27卒まで約50名の参加を得て、盛大に開催できました。会場に土佐の地酒も持ち込み、学年が違っていても同窓生という繋がりがあるので、あちこちで楽しい笑い声が聞こえてくる楽しい会になりました。最後まで残っていたメンバーで店の前で写真を撮影したのが、会のスタートから4時間後、あっと言う間の出来事のようなものでした。岡山県に住む卒業生が、2~300名くらいの卒業生がいることとなりますので、今回参加くださった卒業生から更に多くの同窓生に声を掛けさせていただき、高知医科大学・高知大医学部同窓会岡山県支部が出来ればと思っています。岡山県在住の卒業生のみなさま、よろしく願い申し上げます。

★メーリングリスト作成して連絡を取りますので、岡山県にお住まい同窓生の方は、下記の入力ホームに連絡を下さい。

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/6af33c73462224>



《会員から》

高知医科大学 13 期生 卒後 20 年の同窓会

高知大学医学部 医学教育創造・推進室

藤田 博一（平成8年卒 第13期生）

H28年8月6日の同窓会総会に合わせて、卒後20年目に当たる13期生の同窓会を開催しました。高知に残っている仲間とは忘年会などで交流はありましたが、卒業して県外に出て行った同級生との同窓会は今回が初めてになりました。

当初、本当に高知まで来てくれるのか…という不安もありましたが、蓋を開けてみると県内外から30名近くの同級生が集まってくれました。学生当時を振り返りながら話に花が咲きましたが、今回は卒業アルバムを持ち込んだので、20年という年月の残酷さを目の当たりにしながらお互いの無事を喜び合いました。さらに、全員の一言スピーチで盛り上がりましたが、一言が一言で終わるはずありません。20年という月日は過ぎてしまうとあっという間ですが、その間の苦労話、現在の仕事やこれからの目標など、話し始めると本当に止まらなくなってしまいました。

結局最後まで飲んでいたメンバーが帰ったのは明け方になったようですが、楽しい時間が過ごせました。みんな口を揃えて「来年もやろう！」と言ってくれましたが、幹事は誰がやるんだ…なんて思いながら、でもこうして忙しい合間を縫って参加してくれた仲間にとっても感謝しています。

残念ながら今年参加できなかったみなさんも、同窓会の総会は毎年行われていますので、ぜひ参加して下さい。その時は声をかけてくれたら高知のメンバー全員でオールナイトの歓迎をしますので、覚悟してお越し下さいね。



《平成28年 同窓会総会開催報告》

平成28年8月6日(土) ホテル日航高知旭ロイヤルにおいて17時より総会、18時より講演会、19時より懇親会が開催されました。懇親会では同窓会総会に合わせて卒業20周年を記念して高知医科大学13期生の同期会も開催されました。

I 総会 : 事業報告、会計報告、監査報告、事業計画、予算案
会長選出、その他

II 講演会 : 「超高齢社会に求められる在宅医療 ～在宅医療のすすめ～」
東京大学医学部在宅医療学拠点 特任准教授
山中 崇 先生 (平成元年卒 第6期生)

【講演要旨】

平成元年高知医科大学を卒業後、大学時代のつながりから東京女子医科大学に勤務。1994年に東京女子医科大学東医療センターで在宅医療に従事するようになった経緯、当時大学病院から訪問診療を行っているのは自治医科大学地域医療学センターと2箇所だけであったが、2005年には臨床研修にも対応となった。

在宅医療での役割と種類として「自宅の治療を支える医療」「生活を支える医療&緩和ケア」をあげ、ボランティアを含め様々な人たちの関わりや、自宅へ行くことによって軽度認知障害による問題点を浮き彫りにでき、多職種の連携で問題点を解決できたチームアプローチなど自験例を紹介。今後の高齢者の増加の問題は 高知県などの地方ではなく東京を中心とする大都市圏の大きな問題であると述べた。

その後、現在の東京大学医学部在宅医療学拠点の活動や、学生教育で高知大学医学部との関わりを話された後、在宅医療での必要なものとして連携・運営・環境をあげ講演を終了。
(文責 廣瀬大祐)

《事務局からのお知らせ》

同窓会名簿の発行および協賛広告の募集について

今年度にも名簿の発行を予定しています。個人情報に配慮しつつ、より正確なものとするために会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。名簿への掲載項目は、勤務先名、勤務先住所、勤務先電話、メールアドレスです。掲載を希望されない項目がありましたら掲載いたしませんので、その項目を事務局までご連絡ください。また、勤務先の変更

等がありましたら FAX またはメールにてご連絡くださいますようお願いいたします。

協賛広告をご希望される方はメールまたは郵送にて事務局まで原稿(印刷したもの、またはデータ)をお送り下さい。

掲載広告 : A4 モノクロ 1 頁、1/2 頁、1/4 頁、1/8 頁

掲載号 : 会員名簿 平成 28 年度版(予定)

掲載料 :	1 頁	2 分の1 頁	4 分の1 頁	8 分の1 頁
	80,000 円	40,000 円	20,000 円	10,000 円

振込口座 : 四国銀行 大津支店 普通口座 0109420

高知大学医学部卒業生同窓会 代表 廣瀬大祐

会費納入のお願い

未納の方は下記口座への納入をお願いします。終身会費は 5 万円です。

【郵便局からのお振込み】

口座番号:01680-2-130874 高知大学医学部医学科同窓会

【他銀行からのお振込み】

店名 : 一六九店 預金種目 : 当座

口座番号 : 0130874 高知大学医学部医学科同窓会

医師賠償保険団体加入のお知らせ

医学科同窓会で勤務医師賠償責任保険を団体扱いで損保ジャパンと契約しています。現在、約 200 名の加入者があり、保険料について団体割引 15% (平成 28 年度) の適用を受けております。詳細につきましては下記取扱代理店までご連絡ください。

【取扱代理店】 はらだ保険企画 〒780-0063 高知市昭和町 10 番 5 号

TEL : 088-823-7152 携帯 : 090-1007-8339

E-mail : daiwa-si@dion.ne.jp

事務局連絡先

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

高知大学医学部医学科同窓会

TEL&FAX : 088-866-0034 メール : dosokaij@kochi-u.ac.jp